

予報 小栗まつり

5月25日(日)

講演会 午後1時30分から

「いま小栗上野介に何をまなぶか」

作家 童門 冬二 先生



◇歴史作家として知られる童門冬二先生はかつて上毛新聞に「小説 小栗上野介」を連載し、筑摩書房から出版したことはご存知のとおりです。

◇このたび、平成13年に続いて再び当地で小栗上野介を語っていただきます。

作家。1927年生まれ。東京都庁に勤め、広報室長、企画調整局長、政策室長などを歴任して退職、作家活動に入る。 <主な著書> 『織田信長 破壊と創造』、『戦国武将の危機突破学』、『大御所家康の策謀』、『参謀は名を秘す』、『小説 上杉鷹山』など。

今年の会場は(午前午後とも) 東善寺のみです。

小学校の駐車場は使用できます。

墓前祭 非命没後146年(147回忌) 追悼 墓参

小栗上野介主従と殉難の村人に一

会長挨拶・読経献香 どなたも参列できます

記念演奏 倉渕中学校音楽部 吹奏楽「小栗のまなざし」ほか

群馬マンドリン楽団「小栗讃歌」・「トミーポルカ」
横須賀海軍工廠歌「ヘイルコロンビア」
朗読「維新無情」、マンドリン曲「小栗のまなざし」
ポピュラー曲などたくさん

紙芝居 「小栗上野介の生涯」

午後

講演 「いま小栗上野介から何をまなぶか」

作家 童門 冬二 氏

展示 「遣米使節小栗忠順の世界一周の旅」の資料をパネルで展示します。

昼市 (11時～オープン)

境内ではたくさんの倉渕及び小栗上野介関連の土地の物産を即売します

簡単な食事も出来ます。小栗上野介・幕末の歴史ファンのための
いい出会いの場となります。

横須賀の海軍カレー・広島海軍コーヒー・手打ちソバ・マス塩
焼・ヤキトリ・地酒・ビール・まんじゅう・漬物など農産加工品
・キノコ・小栗最中・小栗幕末関連書籍・団子・梅干・陶芸など
*なめこ汁・甘茶は無料

ボランティアスタッフ募集

小栗まつり・ボランティアスタッフを募集します。

(県・町の内外を問いません)。

24日(土)午後1:30集合～テント張り、看板つけ、昼
市準備、 25日(日)午前9:00～ 駐車場誘導、片づ
けなど *雨天決行*遠方の方は26日夜寺に宿泊可能
(作業着・雨具・シューズ・パジャマ 持参)

・申込み 5月15日までに電話・メールで

臨時運行

特別乗り合いジャンボタクシー (25日
限定運行・先着9人まで・予約制)

小栗上野介顕彰会では遠方からのお客様のために、乗
合タクシーを1本だけ運行します。片道1000円

往: 高崎駅9:00→榛名支所9:25→9:50
東善寺

復: 東善寺15:00→榛名支所15:25→15:
55高崎駅

お申し込みは…小栗上野介顕彰会事務局

(倉渕支所地域振興課内027-378-3111代)へ

・東善寺でも取次ぎます。

小栗のまなざし

2月23日 群馬マンドリン楽団東京公演がトッパンホールで行われ、マンドリン曲になった「小栗のまなざし」が演奏されました。

昨年4月に作曲家福田洋介氏によって吹奏楽曲で制作された「小栗のまなざし」ですが、群馬マンドリン楽団の主宰者両角文則氏の依頼で、作曲家福田洋介氏によりマンドリン曲にも作曲されたものです。当日はホールいっぱいの観客がマンドリンの音色や、テノール歌手秋谷直之さんの歌声に魅せられました。

◇小栗上野介の子孫 小栗かずまた・小栗又一郎氏夫妻が墓参



又一郎氏は「花さか天使テンテンくん」などのマンガ家「小栗かずまた」として知られ、漫画誌で連載活躍中のため多忙で、久しぶりに洋子夫人を伴っての墓参となった。

4月27日（日）、前日に泊まった伊香保温泉「福一」

から住職の迎えの車で途中、顕彰慰霊碑や、前日にオープンしてにぎわう道の駅「小栗の里」に立ち寄り東善寺に到着。出迎えた市川八十夫・平治小栗上野介顕彰会長父子とともに歓談。昭和20年の戦時中、祖母に当たる小栗菊子さんが当時小学生だった忠人さん（又一郎氏の父）と妹の洋子さん（のちブラジルで死去）の二人を連れ、市川家の支援を受けて苦心の末に権田に疎開したころの話を八十夫さんから聞き、道子夫人の会津への脱出行のあとも続く村人と小栗家の深いつながりに感銘を受けた様子だった。

◇遣米使節団の銅メダル（レプリカ）

万延元年（1860）遣米使節団にブキャナン大統領から記念として贈られた大統領の像入りメダルのうち、銅メダルの模造品が寄贈されましたので、展示します。使節三人に金メダル、随員が銀、従者には銅メダルが贈られました。今回の模造品は何かの記念品として製造されたものらしく大統領の顔は丁寧によく出来ていますが、本物とは赤銅色でない色調のほか何箇所かの違いがあります。ネットではもっともらしい古文書や箱をつけ本物まがいの売り方をしているので、買おうという方はご注意ください。



▲銅メダル（模造品）

見分け方は ①色調が違う。②髪型がサッカー選手ベッカム風で違いが顕著 ③周囲の英文字が大きく始めと終わりの位置が違う、などが特徴。

◇日仏交流の原点をさぐる 繭と鋼 展

—神奈川とフランスの交流史—

神奈川県立歴史博物館 4月26日（土）～6月24日（日）

▽一昨年の小栗まつりで日仏交流史を講演したクリスチャン・ポラック氏の豊かつ貴重なコレクションが展示されます。



◇タイトルの「繭」はもちろん当時の日本の代表的な輸出品で、横浜から輸出されました。ポラックさんは「商品の繭束に付けられた産地ごとの商標の美しさをぜひ認識していただきたい」と語っています。

▽「鋼」は横須賀でフランス人の指導のもとに繰り広げられた製鉄所・造船所にかかわるコレクション。医師のサヴァティエは日本の植物、とくに百合に魅せられ幕臣馬場大助の描いた百合の絵を終生手元においたそうです。今回その絵をサヴァティエの子孫から借りて特別出展します。

▽一昨年の小栗まつりで講演したポラックさんは、展示品の中に「小生が何度眺めても、人の幸福とはこのようなものではないか、と思える写真がある」そうで、「波の音や犬の鳴き声も聞こえてきそうな一枚を見つけて下さい」とのことです。

◇「会津人群像」26号

特集「小栗上野介と会津」



4月末に歴史春秋社から発行の26号に、村上泰賢の記事が掲載されます。以前同誌の第6号に会津へ逃れた小栗夫人や小栗上野介と会津の関わりを書いたので、今回は会津若松市が横須賀市と姉妹都市なので、明治以降の日本近代工業の源泉として日本産業革命の地となった横須賀製鉄所の意義を中心として書きました。 東善寺でも販売

あさかくにつこ

◇安積良斎の安積国造神社（郡山市）で講演

・遣米使節団がもらった銅メダル（模造）
○寄贈されました。
横須賀市 加藤和宏様

住職は小栗上野介の漢学の師で、駿河台の小栗邸で初めに学塾を開いた安積良斎の生地安積国造神社の安積歴史塾に招かれて、小栗上野介を語り、熱心に聴いていただきました。久しぶりに会う作家・星亮一先生もお元気で、安藤智重宮司とともに歴史塾の運営にあたっていました。

